

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

管理職に求められる部下を育てようという志 佐々木 常夫 (東レ研究所特別顧問)

1. 今の 20 代、30 代を理解できないと言う上司がいるが、そういう人は、部下への接し方を間違っていないか、自問してみる必要があるだろう。困っている部下に対して自分の体験をひけらかし、こうすべき、ああすべきと言っているようではダメ。困っている今の問題について今の自分ならどうするか、個別のその人の立場になって話をする。そうすれば本音でいろんなことを話してくれ、状況をより深く理解でき、アドバイスも的確になる。
2. 私はリーダーシップの要諦は現実把握力であると常々言っている。決断力や先見性よりも、現実をしっかり把握できる能力こそ重要。部下が何に悩んでいるか、その人の立場になって本気でつかもうとすれば、わからないはずがない。理解できないのは、わかろうとする努力が足りないだけだ。
3. 管理職は、自分のチームの成果を最大限にするというミッションを負っている。チームの全員がモチベーションを上げて仕事をできるようにする、ということだ。そのために必要なのは、仕事術やスキルを教えることではない。部下を育てようという志を管理職が持っているかどうかが一番大事になる。

(参考:「週刊東洋経済」2013年7月27日号)

経営者のための危機管理

国がブラック企業を調査

1. サービス残業やパワハラなど劣悪な労働環境の下、若者を使い捨てるブラック企業の実態解明に、国が腰を上げる。8月8日、田村厚労相は、9月の1カ月をかけ、「若者の使い捨て」を主眼に置き、時間外労働や賃金不払いなどの労働基準法違反の疑いがある企業への集中調査を実施すると発表した。その対象となる企業数は少なくとも全国4000社に上る。
2. 国が「若者の使い捨て」をなくすことを目的とした調査を行うのは初めて。その上、悪質な違反が発覚し、是正されない場合は、労働基準監督署が書類送検し、社名を公表する。いわば、国がブラック企業をめぐる論争に白黒つけようというわけだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2013年9月7日号)

新規成長分野

増加する法人経営体 (農業)

1. 農林水産省が発表した「農林業センサス」によると、日本では農業就業者の高齢化が進んでいる。農業就業人口の平均年齢は2014年で65.8歳となり、65歳以上の割合も60%を超えている。日本全体の就業平均年齢が45.0歳であることから、農業の担い手の高齢化度合いが見て取れる。
2. 日本農業に「規模拡大への萌芽」とみられる変化が起きつつある。まず、法人化した農業経営体の増加があげられる。農業経営体は2013年時点で151万、148万の家族経営体と3.2万の組織経営体とに分けられる。総数ベースでは2013年に前年比3.2%減少のうち家族経営体は3.3%減少となったが、組織経営体は1.6%増加、なかでも法人経営体は1.8万と、2.2%の増加となった。

(参考:「野村週報」2013年9月9日号)

古典に学ぶ

人間の偉大さ

(解説) 天地が生ずる以前に、すでにあるものが存在した。そのものは、混沌として形容しがたく、感覚で捉えることはできない。他に依存せぬ独立の存在で、そのはたらきは、時間空間を超越して止むことがない。これが天地の母である。このものは限定できないから、名づけられない。かりに名づけて「道」とよぶ。だがひとつのことばではいいつくせない。それが偉大であるゆえに、強いて名づけて「大なるもの」といおう。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)